

2025 年度 日本社会教育学会 六月集会 プログラム

2025 年 6 月 7 日 (土) 13:30 ~ 18:40 (受付 13:00 ~)

6 月 8 日 (日) 9:00 ~ 17:00 (受付 8:30 ~)

6 月 7 日 (土)	受付 13:00 ~		13:30 ~ 16:30	16:40 ~ 18:40	18:50 ~
			プロジェクト研究 「男女平等・ジェンダー 公正をめぐる課題と 社会教育の可能性」	社会教育士 特別 プロジェクト	全国 理事会
6 月 8 日 (日)	受付 8:30 ~	9:00 ~ 12:00	昼食	13:10 ~ 14:50	15:00 ~ 17:00
		プロジェクト研究 「多文化・多民族共生を 目指す社会教育の挑戦」		会場校企画 「実習を通して考える 社会教育の現場と 大学の関係性」	ラウンド テーブル ① ~ ④

◇共 催 日本女子大学人間社会学部 現代社会学科・教育学科

◇会 場 日本女子大学 目白キャンパス (4 頁に地図)

◇受 付 6 月 7 日 (土) 13:00 ~ 120 年館 地下 1 階
6 月 8 日 (日) 8:30 ~ //◇参 加 **事前参加申込みのみ** (当日の参加受付はありません。)
参加費についても事前振込
※事前参加申込み方法については 2 頁参照のこと

◇昼 食 大学周辺に食事をできる場所や、コンビニなどの購入できる場所が少ないため、昼食は事前の購入を推奨いたします。土曜のみ、大学内の学食 (~ 13:45) や購買部 (~ 14:00) も営業しております。

【各地の研究集会】

◎東北・北海道研究集会 (北海学園大学)	5 月 31 日 (土)・6 月 1 日 (日)	10 頁
◎東海・北陸地区社会教育研究集会 (愛知教育大学教育未来館多目的ホール)	6 月 22 日 (日)	11 頁
◎関 西 研 究 集 会 (大阪市生涯学習総合センター)	6 月 29 日 (日)	13 頁
◎中国・四国地区社会教育研究集会 (広島大学きてみんさいラボ) ※人数により変更有	6 月 15 日 (日)	14 頁
◎九州・沖縄地区六月集会 (久留米市市民活動サポートセンターみんくる他)	6 月 21 日 (土)	15 頁

ご注意 天候や感染症などの影響により、日程・会場の変更や取止め等の場合がありますので、
参加される方は必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。

□六月集会の事前参加申込について

六月集会参加は事前申込みとなります。

参加希望の皆さまには、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます。
(オンラインで手続きが出来ない方は、事務局までご連絡ください。)

集会の要旨は、集会前日までに参加登録者ページに掲載しますので、各自で閲覧していただき、必要に応じてプリントアウトしてご持参ください。また集会当日の参加受付はいたしませんので、**必ず**事前に参加申込みと参加費事前振込をお忘れなきようお願いいたします。

準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

●オンライン事前参加申込受付：5月1日(木)～5月15日(木)

学会HPの画面左下にある＜六月集会参加申込システム＞から参加登録をしてください。

下記振込先に入金してください。入金が確認できない場合は、参加申し込みとなりませんので、ご注意ください。

※学部生も参加申込みが必要です(学生証添付の上、参加費無料)。

●参加費の支払い：一般・院生 1,500 円／学部生 無料(但し、学生証添付)

※学会員の院生は学生証添付の上、1,000 円

振込先：ゆうちょ銀行

振替口座：00150-1-87773

口座名：日本社会教育学会

◎他金融機関からの振込用口座番号：〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)当座 0087773

●問合せ先

日本社会教育学会事務局 ≪HP <https://www.jssace.jp/>≫

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail: jssace.office ◎ gmail.com (◎を @ に変えてください)

(祝祭日除く月・木曜日 10:30-16:30 リモートワーク中)

□参加者への注意事項

- ・天候や感染症等の影響により、開催方法等を変更する場合がありますので、参加される方は、必ず事前に学会 HP で確認するようお願いいたします。
- ・会場校の構内でのマスクの着用は任意です。ただし、状況次第では着用をお願いすることになりますのでご承知おき下さい。

□会場校連絡先

荻野 亮吾 ※問い合わせはできる限りメールにてお願いします。

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学人間社会学部教育学科 荻野研究室

電話：03-5981-7504（研究室直通）

E-Mail：oginor ◎ fc.jwu.ac.jp（◎を@に変換してください）

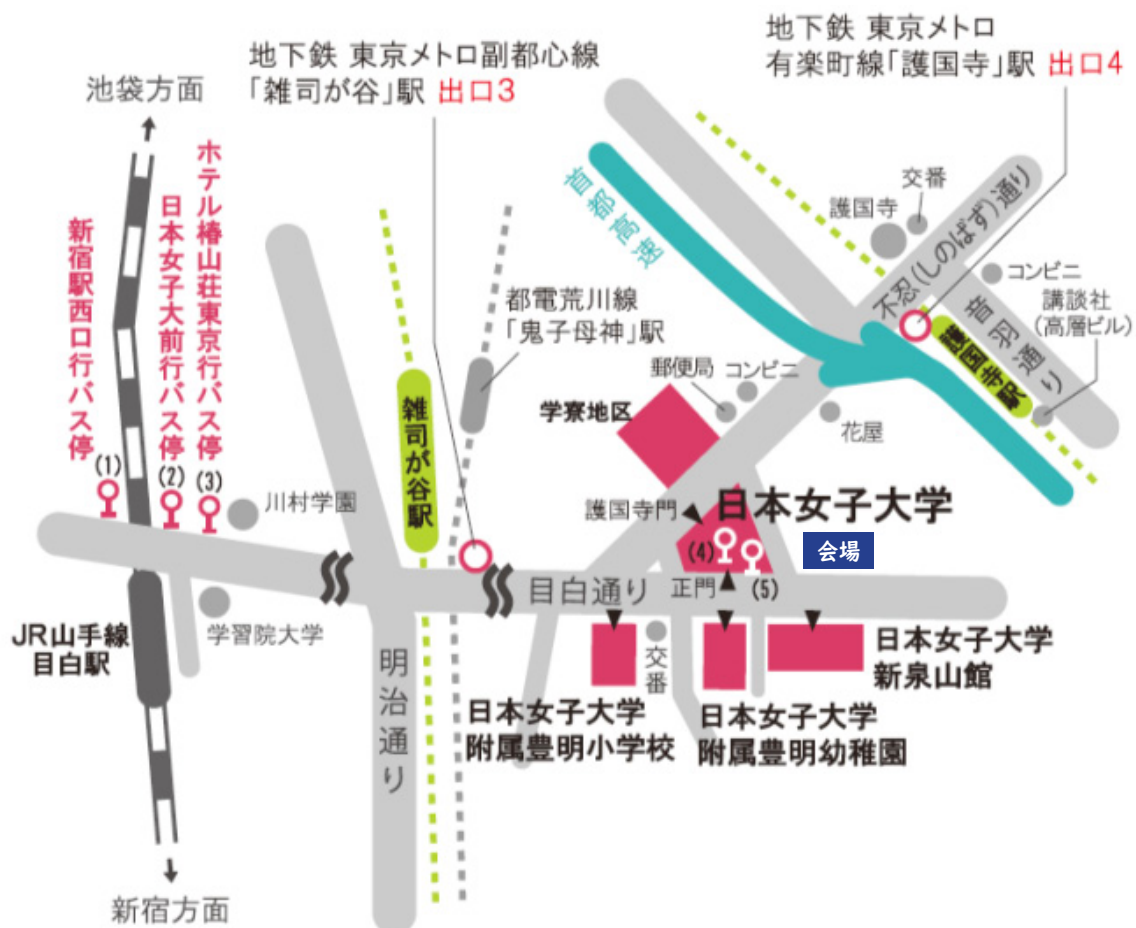
□会場（日本女子大学 目白キャンパス）アクセス

- JR 山手線「目白」駅 徒歩約 15 分 バス約 5 分

【都営バス（学 05）】日本女子大行（直行）※日曜は運休 目白駅前バス停 (2)、日本女子大前バス停 (4) 下車

【都営バス（白 61）】新宿駅西口行き、またはホテル椿山荘東京行き 目白駅前バス停 (1)(3)、日本女子大前バス停 (5) 下車

- 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅（3 番出口） 徒歩約 8 分
- 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅（4 番出口） 徒歩約 10 分
- 東京さくらトラム（都電荒川線）鬼子母神前停留場 徒歩約 10 分



□会場（日本女子大学 目白キャンパス）構内案内図



【第1日 6月7日（土）】



プロジェクト研究「男女平等・ジェンダー公正をめぐる課題と社会教育の可能性」

----- 13:30 ~ 16:30

テーマ 労働・ケア・家族と社会教育（1） — 「労働・ケア・家族」という問題枠組み

司 会 辻 智子（北海道大学）

堀川 修平（埼玉大学）

報告Ⅰ 「奥むめおの婦人セツルメント活動にみる『母の手』の社会化戦略」

亀口 まか（龍谷大学）

報告Ⅱ 「労働と生活の関連から『就労』と『自立』を問い直す」

野依 智子（福岡女子大学）

報告Ⅲ 「ひきこもりから労働・家族・ケアを問う」

阿比留 久美（早稲田大学）

関水 徹平（明治学院大学）

コメンテーター 島本 優子（徳島市役所）「障害・優生思想の視点から」

企画趣旨 2000年代から今日に至るまで、「標準的な」労働者像、そして実際の労働の場は、どのように変わったか／変わっていないのか。それによって労働と生活とそれにかかわる学びは、どのように変わったか／変わっていないのか。このような労働者（像）や労働の場をめぐる問いを立てることは、家族のあり方の多様化、家族が直面する諸問題の複雑化と密接に結びついている。そのような家族を規定する法制度の現実も踏まえつつ、ケア、たとえば育児・家事・看護・介護が置かれた状況と社会教育実践の関係を考える。これら労働と家族をめぐる問いについて、ケアの視点から、つまり、「労働・ケア・家族」と捉えることによって、社会教育への展望をどのように生み出せるだろうか。

これらを考えるために、まずはプロジェクト研究1年目の到達点を踏まえ、問題提起において「労働・ケア・家族」の問題枠組みがもつ社会教育における意義と課題を整理する。報告Ⅰでは歴史をふりかえり、ケアの家族化の登場に直面した女性たちがケアの社会化をどのように実践したのかという問いに立ち、1930年代の奥むめおに着目する。報告Ⅱでは、障害や疾患がある人々の生活と労働に根差した支援としての「超短時間雇用」の実際から、労働と生活の総体をとらえなおすことのなかにある学びをどのように理解し得るかを論じる。そして報告Ⅲは、ひきこもりを労働・家族・ケアの視点から見た時にジェンダー化されていることを明らかにし、その上で当事者の活動の社会教育的意味を検討する。

これらの報告に対するコメントを踏まえ、フロアからの意見を引き受ける。なお、六月集会ではまずは問題枠組みを、研究大会では実践に即した議論を行う。

社会教育士特別プロジェクト

「社会の基盤をつくる社会教育」における「教育」の内実を問いなおす

----- 16:40 ~ 18:40

司 会 久井 英輔（法政大学）

報告Ⅰ 「都道府県調査の概要から」

齋藤 雅洋（高知大学）

報告Ⅱ 「島根のまちづくりと社会教育人材」

野津 建二（島根県教育長）

コメンテーター 木下 巨一（松本大学・非常勤）

大野 公寛（島根大学）

対談者 岡 幸江（九州大学）

内田 純一（高知大学）

企画趣旨 現在中央教育審議会生涯学習分科会・社会教育の在り方に関する特別部会では、「社会の基盤を支える社会教育」にむけての、社会教育人材のありかたや推進体制が議論されている。

しかしそこでいう教育の内実はいまだ十分明確化されているとはいえない。

そこで今回は、国の議論を方向づけるモデルのひとつとも目される島根県を中心的にとりあげ、その政策形成に中心的に関与してきた野津教育長の報告に学びながら、そこにおける教育の内実を深めていくことを試みたい。

コメンテーターには、首長部局と社会教育の関係において同様の方向性を持ち島根県とも交流を深めてきた長野県飯田市より元職員の木下氏、および大学の立場から島根県とかわって来た島根大学の大会員をお迎えする。また野津氏の語りの引き出し役に、岡会員、内田会員が従事する。

あわせて、特別プロジェクトがこの間すすめている調査活動のなかから、都道府県調査を行ったしくみ・計画部会に、調査概要を報告いただく。

【第2日 6月8日（日）】

ロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」

----- 9:00 ~ 12:00

テーマ フォーマル教育の変容と社会教育の対峙

—海外の実践から考察する多文化・多民族共生に向けた成人教育の方向性から—

司 会 岩槻 知也（京都女子大学）

報告Ⅰ 「オーストラリアのフォーマル教育におけるポストコロニアルアプローチによる
先住民族との協働的学び」

前田 耕司（早稲田大学名誉教授・東京学芸大学非常勤）

報告Ⅱ 「カナダの先住民族集落における成人教育の脱植民地化への挑戦」

広瀬 健一郎（鹿児島純心大学）

報告Ⅲ 「移民・難民への対峙とドイツの成人教育の変容」

佐野 敦子（静岡大学）

コメンテーター 上野 昌之（東京都立大学非常勤）

肖 蘭（北海道大学）

企画趣旨 近代国家の成立以降、日本は世界に追いつくために先住民族を「包摂」とともに、外部からも労働力も調達し、それに合わせた教育も提供してきた。だが、国家によるそうしたフォーマル教育は、一方的な価値観の押しつけである同化政策でもあり、とりわけ民族的マイノリティの排除を招いたことも事実である。一方で、こうしたフォーマル教育から排除された対象への教育保障に向けた社会教育の実践が行われてきた。しかしながら、これらの実践には公的な保障が十分ではなく、差別や偏見の問題と相俟って、現在でも様々な課題が指摘されている。

では、日本同様に、近代化の進行とともに内外からの労働力の移動が活発化してきた他国では、民族的マイノリティを対象とした教育に「社会教育」はいかに機能しているのだろうか。カナダ、オーストラリア、ドイツでは、民族的マイノリティの学習者に対する社会教育が、フォーマル教育と連動するとともにフォーマル教育そのものに変容を迫ってきた。

そこで今回の六月集会では、これらの国の「社会教育」の実践を研究するメンバーが、フォーマル教育との関係に留意しながら最新事例を提供する。そして他国の動向を参考にしながら、日本の多民族・多文化共生の課題を近代化と国家の変容を念頭におきながら追究し、その推進を目指す社会教育の方向性を議論する。とくにそれぞれの関心の共通のキーワードである成人教育に着目し、多民族・多文化共生の推進において、成人に対して社会教育を提供する意義に注視したい。



会場企画「実習を通して考える社会教育の現場と大学の関係性」

----- 13:10 ~ 14:50

司 会 荻野 亮吾（日本女子大学）

報 告 田中 雅文（日本女子大学名誉教授）

中曽根 聡・榊 佑奈（杉並区教育委員会）

佐渡 加奈子（認定 NPO 法人カタリバ）

コメンテーター 生島 美和（帝京大学）

開催趣旨 現在、社会教育主事（社会教育士）の養成・研修のあり方に関する議論が活発化している。その論点は多岐にわたるが、大学における養成課程の今後を考える上では、実践の現場で必要な能力をいかに育めるかが重要な課題となる。

今年度の六月集会の会場校である日本女子大学では、必修科目となる前から、社会教育実習（旧：社会教育インターンシップ）を創設し、15年にわたって、主事課程の中核に位置付けてきた。この取り組みを中心にして、社会教育の現場と大学の関係性を検討することが企画の目的である。

本企画では、4名に報告をお願いする。まず、日本女子大学の養成課程の現状と課題について、長きにわたって課程の担当者であった田中雅文会員からご紹介をいただく。次に、本学の実習を積極的に受け入れ、社会教育経営の担当講師でもある中曽根聡氏と、現在、教育委員会で実習の受け入れの中心を担う榊佑奈氏より、行政の立場から求められる人材と、養成プログラムのあり方についてご提言いただく。さらに、NPOで実習やフィールドワークを受け入れ、実習担当講師でもある佐渡加奈子会員から、現場で学生の成長を促す指導方法に関してご提案いただく。

以上の報告を受け、生島美和会員からは、他大学の養成課程との共通点と差異についてコメントをいただく。この後、フロアとの議論の中で、①社会教育実践をコーディネートするには、どのような専門性が必要か、②専門性を育む入り口として、どのような内容の実習や授業が求められるか、③大学と実践現場との良好な関係をどう築いていくのか、④今後の大学における養成課程のあり方はどうあるべきかなどについて議論したい。

今回の企画は、会場校である日本女子大学の事例が中心になるが、そこにとどまらず、大学の養成課程のあり方を考える機会としたい。



ラウンドテーブル

15:00～17:00

①子ども・若者支援における「支援の重層性」の自治体動向分析

—子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方（7）—

コーディネーター 生田 周二（奈良教育大学）

南出 吉祥（岐阜大学）

報告者 生田 周二（奈良教育大学） 「調査の概要と奈良市・枚方市の事例紹介」

上野 景三（西九州大学） 「子ども・若者支援地域協議会等の自治体動向分析」

開催趣旨 子ども・若者支援の重層性を考える際に、子ども・若者育成支援推進法以降の自治体の取り組みの実態を把握する必要がある。自治体ごとの相違、例えば地域協議会設置の有無、総合相談センターの有無、地域協議会の構成員の違い、調整機関の担当部局と役割、指定支援機関の有無と役割、課題設定とケース検討等の対応などの分析を通して、多様に展

開されている子ども・若者支援における重層的支援の課題と可能性について考え合いたい。

②社会教育施設概念の再検討（その2）

コーディネーター 姉崎 洋一（北海道大学名誉教授） 石川 敬史（十文字学園女子大学）
生島 美和（帝京大学） 金子 淳（桜美林大学）
栗山 究（法政大学非常勤） 瀧端 真理子（追手門学院大学）
長澤 成次（千葉大学名誉教授）

報告者 榎 美香（元千葉県立中央博物館）
微笑 正凡（元所沢市役所）

開催趣旨 前回の議論では、人口減少社会と一連の法改正に伴い、教育委員会から一般行政部局への移管が進む公立社会教育施設のあり方が論点の一つとして示されていた。

この全国的動向が社会教育施設であることの輪郭を描き難くしているのであれば、いかなる論理的枠組みが求められているのだろうか。

今回は、実際の移管問題に直面した施設職員が現場で経験した出来事や論理の理解に学び、社会教育施設を把握するための輪郭の軸を見定めたい。

③社会教育主事養成課程での学び ―卒業を控えた学生へのグループインタビューを基に

コーディネーター 若園 雄志郎（宇都宮大学）
杉山 晋平（明治大学）

報告者 斉藤 雅洋（高知大学）
倉持 伸江（東京学芸大学）
渋谷 かさね（静岡大学）

開催趣旨 社会教育主事養成課程（以下、養成課程）を履修した学生が、どのような学びを経験したかについて知るために、養成課程で学び卒業を控えた状況にある複数の大学の学生に、グループインタビューを実施した。本ラウンドテーブルでは、各大学の養成課程の特徴を押さえつつ、インタビュー結果より学生の学びの内実や広がり、それを捉える視点や枠組みを追究する。そのことを通して、養成課程のあり方を考えあう機会としたい。

④中教審「社会教育の在り方に関する特別部会」の議論をめぐって

コーディネーター 宮崎 隆志（北海道文教大学）
岡 幸江（九州大学）

報告者 宮崎 隆志（北海道文教大学）
岡 幸江（九州大学）

開催趣旨 周知のように、中教審「社会教育の在り方に関する特別部会」では社会教育士の位置づけを中心に今後の社会教育推進体制の検討が進められている。同部会のこれまでの議論をもとに、社会教育士・社会教育主事・社会教育行政等に関わる諸問題について自由に意見交換を行い、研究の立場から見た論点整理を行いたい。

5月31日(土) 14:00～17:00

6月1日(日) 9:30～15:00

地域再生への教育計画⑥ ―学校の境界を超える

◇プログラム:

5月31日(土) 14:00～17:00 シンポジウム

司 会 宮崎 隆志(北海道文教大学)・石井山 竜平(東北大学)

報告① 「保健室から見える若者の生きづらさ」

山形 志保(札幌市・養護教諭)

報告② 「アートで学校に隙間を創り出す」

小林 亮太郎(札幌市・AIS プランニング)

報告③ 「若者が地域で活動することの意味を高校生と考える」

水谷 あゆみ(札幌市・ezorock)

コメンテーター 荻原 克男(北海学園大学)

松本 大(東北大学)

辻 智子(北海道大学)

開催趣旨 子どもたちの暴力行為や長期欠席の増加の背後には家族や地域社会の変容に伴う社会病理があるといわれている。地域再生に向けた教育計画には、その課題を視野に収めたうえで学校の境界を超えるための仕組みを創出することが求められる。子ども・若者の自己形成空間の変容の下での地域再生に向けた教育計画の課題を検討したい。

6月1日(日) 9:30～15:00 自由研究発表

◇参加費:一般 1000 円、学生 500 円

◇申し込み先: <http://tiny.cc/e3kf001> あるいは右の QR コードよりお申込み下さい。

*自由研究発表締切:2025 年 5 月 7 日(水)

*参加申し込み締切:2025 年 5 月 19 日(月)



◇会場:北海学園大学 7 号館 3 階 D30 教室(5 月 31 日)

7 号館 4 階 D40・D41(6 月 1 日)

◇アクセス:

地下鉄東豊線「さっぽろ」駅または「大通」駅で福住行きに乗車し、「学園前」駅下車。3 番出口直結。
(乗車時間「さっぽろ」駅から 6 分、「大通」駅から 5 分)

※構内駐車場が少ないため公共交通機関をご利用願います。

◇連絡先:〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央 5 丁目 196 番地の 1 北海道文教大学

宮崎 隆志(t-miyazaki@t.do-bunkyo.ac.jp)

6月22日（日）10:00～16:30

学校づくりと社会教育

◇プログラム：

趣旨説明 大村 恵（愛知教育大学）

司 会 渋江 かさね（静岡大学）、上原 直人（名古屋工業大学）

1. 愛知県における夜間中学校の開校と市民参加

報告1 「とよはし中学校の開校までの経過と今後の課題」

白井 泉（愛知県立とよはし中学校）

報告2 「なごやか中学校の開校までの経過と今後の課題」

佐村 明生（名古屋市立なごやか中学校）

報告3 「地域の民間支援団体『自主夜間中学はじめの一步教室』のこれまでとこれから」

笹山 悦子（愛知夜間中学を語る会代表・

公立夜間中学の設立及び充実を求める愛知連絡協議会共同代表）

2. コミュニティスクールと地域学校協働による学校づくり

報告4 「『地域とともにある学校づくり』から『学校を核とした地域づくり』へ」

船坂 礼子（瀬戸市教育委員会統括コーディネーター・

文部科学省総合教育政策局CSマイスター）

報告5 「田原市における地域学校協働」

高田 昇幣（田原市地域学校協働活動推進員統括地域コーディネーター・

一般社団法人ほっきょく代表理事）

3. 校内教育支援センター・居場所づくりが学校を変える

報告6 「岡崎市立中学校校内フリースクールF組の取り組み」

安藤 眞樹（岡崎市立竜海中学校）

報告7 「名古屋市における『校内の教室以外の居場所づくり』の現状と課題」

大杉 周三（名古屋市立前津中学校）

交流会 16:30～17:30（交流会参加費200円）

◇参加費：無料 ◇昼食：学内の食堂は営業していませんので、昼食はご持参ください。

◇申込み：次のURLから事前申し込みをお願いします。

<https://forms.office.com/r/wbj1FvZtWx>

◇会場：愛知教育大学教育未来館多目的ホール（愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学）

◇アクセス：

- ・名鉄名古屋本線：知立駅下車 名鉄バス「愛知教育大前、日進駅、三好」行きのいずれかにご乗車（約20分）の上「愛知教育大前」にて下車。
- ・名鉄豊田線：日進駅下車 名鉄バス「知立」行きにご乗車（約30分）の上、「愛知教育大前」にて下車。
- ・JR刈谷駅発 名鉄バス「愛知教育大前」行き（名鉄 富士松駅経由）のバスにご乗車（約40分）の上「愛知教育大前」にて下車。

◇連絡先：大村 恵（愛知教育大学） Email：mohmura@aecc.aichi-edu.ac.jp

中山 弘之（愛知教育大学） Email：hiroyuki@aecc.aichi-edu.ac.jp

The map illustrates the following routes to Aichi Education University:

- From Nagoya Station:** Take the Meitetsu Nagoya Line (名鉄名古屋線) towards Kanazawa, transfer at Kanazawa to the Meitetsu Chubu International Airport Line (名鉄空港・常滑線), and take it to Nakagyo Station (名鉄名古屋駅).
- From Sakae Station:** Take the Meitetsu Nagoya Line (名鉄名古屋線) towards Kanazawa, transfer at Kanazawa to the Meitetsu Chubu International Airport Line (名鉄空港・常滑線), and take it to Nakagyo Station.
- From Kanazawa Station:** Take the Meitetsu Chubu International Airport Line (名鉄空港・常滑線) to Nakagyo Station.
- From Shinjyogasaki Station:** Take the Meitetsu Chubu International Airport Line (名鉄空港・常滑線) to Nakagyo Station.
- From Atsuta Station:** Take the Meitetsu Chubu International Airport Line (名鉄空港・常滑線) to Nakagyo Station.
- From Nishi-Shinjyogasaki Station:** Take the Meitetsu Chubu International Airport Line (名鉄空港・常滑線) to Nakagyo Station.

A detailed map of the Aichi University of Education campus and its surroundings. The campus is highlighted in orange and is located near the intersection of National Route 234 and National Route 54. Key features include:

- Campus:** Aichi University of Education (愛知教育大学) is the central feature, with a smaller building labeled "愛教大附属" (Aichi University of Education Affiliated) to its southeast.
- Water Bodies:** Several ponds are shown in blue, including 草野池 (Kusano Pond), 岩ヶ池 (Iwaga Pond), 洲原池 (Shiwa Pond), and 自然観察園 (Natural Observation Garden).
- Transportation:**
 - National Route 234 runs north-south through the area.
 - National Route 54 runs east-west, passing the campus.
 - National Route 56 runs south from the campus area.
 - The Ise Bay Expressway (伊勢湾岸自動車道) is shown at the bottom, with the Ogiya Smart IC (刈谷スマートIC) and Ogiya Highway Oasis (刈谷ハイウェイオアシス) nearby.
- Landmarks and Facilities:**
 - 井ヶ谷町 (Iwaga Town) is labeled in several locations, including 井ヶ谷町西口 (Iwaga Town West Exit), 井ヶ谷町中前田 (Iwaga Town Nakamaeda), 井ヶ谷幼稚園 (Iwaga Kindergarten), 井ヶ谷町沢渡 (Iwaga Town Sawatari), 井ヶ谷町孫六 (Iwaga Town Sonroku), and 井ヶ谷町屋 (Iwaga Town Ura).
 - 洲原公園 (Shiwa Park) is located to the northeast of the campus.
 - 老人ホーム 洲原ホーム (Elderly Home Shiwa Home) is located to the northeast.
 - 富士松北小 (Fujimatsu Kita Elementary School) is located to the southwest.
 - 東境町町屋 (Higashi Saka Town Ura) is located to the southwest.
 - 至東名三好 IC (Toei-Mei San'yō IC) is located to the north.
 - 至豊田南 IC (Toi-Toyama Minami IC) is located to the south.



第 49 回 関西研究集会

大阪市生涯学習総合センター

6月29日(日) 10:30～16:15(予定)

現場とともに交流と対話の方法をさぐる(4): 人口減少に立ち向かう社会教育実践に注目して

◇プログラム:

<午前 10時30分～11時50分(予定)>

主旨説明:新矢 麻紀子(大阪産業大学)

基調講演:川中 大輔(関西学院大学)(30分)

「人口減少地域のコミュニケーションデザイン ―学びと活動の再編集に向けて―」

フロア討議・モデレーター:松岡 広路(神戸大学)

<午後 13時00分～16時15分(予定)>

コーディネート:田所 祐史(京都府立大学)、後藤 聡美(神戸大学)

前半 13時00分～14時30分(質疑込み)

(1) 笛木 颯仁(たんば社会教育士コミュニティ)

「たんば社会教育士コミュニティの挑戦～子どもも大人も共に学び合い、育ち合う、
誰もが楽しく参画できる社会をつくるために～」

(2) 井崎 洋之(与謝野町教育委員会)

「教育で地域づくり～与謝野町高校魅力化ビジョン策定の取り組みから～」

後半 14時45分～16時15分

グループワーク

総合コメント・まとめ:村田 和子(和歌山大学名誉教授)

閉会の挨拶:津田 英二(神戸大学)

◇申込み:参加には事前申込が必要です。

下記の URL あるいは QR コードのリンク先のフォームよりお申し込み下さい。

<https://forms.gle/Mwc6M7jqKB5JLHq26>

→ QR コード



◇会場:

大阪市生涯学習総合センター・第2研修室

大阪市北区梅田 1-2-2-500

大阪駅前第2ビル 6階

◇アクセス:各種鉄道

大阪駅・(西東)梅田駅・北新地駅より

徒歩(5～10分)

◇連絡先:林 美輝(龍谷大学)

Email: mhayashi@let.ryukoku.ac.jp

6月15日（日）13:00～16:00

社会教育的視点からみる「地域と学校」

◇プログラム：

司 会 松田 弥花（広島大学）

報告① 山口県における地域連携教育：学校を核とした地域づくり、地域とともにある学校づくり
藤原 一（下関市立角倉小学校）

報告② 島根県における「地域と学校」と「人づくり」

山本 一穂（島根県教育庁）

山崎 順子（出雲市鳶巣（とびす）コミュニティセンター）

コメンテーター 斉藤 雅洋（高知大学）、大野公寛（島根大学）

◇会場：広島大学きてみんさいラボ ※人数により変更の可能性があります

〒732-0822 広島県広島市南区松原町 2 番 62 号 広島 JP ビルディング内 2 階

◇アクセス：JR 広島駅より徒歩 2 分

※駐車場はございませんので近隣のパーキングをご利用願います。

◇申込み

5 月 30 日（金）までに URL か QR コードよりお申し込みをお願いいたします。

<https://forms.gle/8Zz5cEjQAvgaR4US9>

→ QR コード



◇連絡先：松田 弥花（広島大学）

電話 082-424-6746

Email : yaka-matsuda@hiroshima-u.ac.jp



九州・沖縄地区六月集会

久留米市市民活動サポートセンター みんなる他

6月21日(土) 10:00～17:30(夜プログラム別途)

地域における居場所づくり、再考

◇プログラム：

①朝プログラム

10:00～ 「じじっか」訪問(久留米市梅満町 32-4)

②昼プログラム

14:00～ 「みんなる」訪問(久留米市六ツ門町 3-11)・現場で「みんなるの目指すもの」を共有

15:00～ シンポジウム

コーディネーター 岡 幸江(九州大学)

コメンテーター 小栗 有子(鹿児島大学)、農中 至(鹿児島大学)

報告者 中村 路子(一般社団法人 umau 代表/じじっか運営者)

「居場所ではなく、人が生きていくうえで必要な土台づくりにかかわる」

秋山 太(久留米市役所前地域福祉課)

「願いを叶えあう参加支援に、行政職員としてかかわる」

おきなまさひと(市民活動サポートセンターみんなるセンター長)

「つながりづくりを専門職化せず、地域に戻していくために」

③夜プログラム

第1部：久留米猛者ナビによる、コース別ちよい飲み案内

第2部：ザ・久留米な「松竹本店」で、開放的飲み語らい会

第3部：まちづくりスナックへ、ディープなまちづくりの現場探訪

◇会場：久留米市市民活動サポートセンター みんなる 他

◇アクセス：移動手段について、参加申し込みいただいた方に改めてご案内します。

◇申込み：事前申し込みをお願いします(会場の都合上、上限 40 名先着順)。

<https://forms.gle/CMRTVVPw7DmvYACU8>

→ QR コード



◇連絡先：岡 幸江(九州大学)

福岡市西区元岡 744 九州大学大学院人間環境学研究院

Email: oka.sachie.094@m.kyushu-u.ac.jp

日本社会教育学会 2025 年度六月集会・研究集会プログラム
2025 年 4 月 25 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局

〒189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F

E-mail : jssace.office@gmail.com <https://www.jssace.jp/>

【会費等納入先】

ゆうちょ銀行 振替口座 00150—1—87773（口座名：日本社会教育学会）

他金融機関からの振込用口座番号 〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773
